

Yさんのこと、テニス部のこと

テニス部長 中嶋 嶺雄

最近には教職員の間でもテニスが流行している  
 ようで、AA研の山口昌男所長や永田教授が、  
 今日にはテニス部の女子部員と対戦して自熱した  
 試合になったとか、教員の中で誰が一番上手  
 か、といった情報も私のところにもよく入って  
 くる。私自身は、なにかコートに出る暇もない  
 毎日で、内心憎恨たるものがあるけれど、大変  
 ほほえましいことではないだろうか。大変  
 テニス部という女子部員のYさんのこと  
 が気にかかる。彼女は昨年夏に催された中嶋セ  
 ミの「東西ヨーロッパ」を比較する「第三回海外  
 研修旅行」に参加したいとのことであつたが、そ  
 の期間がちょうどテニス部の夏合宿に重なつて  
 しまい、さんさん悩んだ末に合宿の方を選んだ  
 のであつた。レギュラーの位置を確保するた  
 めには、夏合宿は欠かせないものであつた。う  
 ち、一方、研修旅行にも行きたいといふので、私  
 は相談を受け、彼女の選択にまかせたのであ  
 った。

その後、彼女がレギュラーとして活躍したの  
 かどうか、報告を受け、機会を逸していき、けれ  
 ど、少しは気分にかかつて、今日までいたつてし  
 まつた。

私たちの研修旅行は、ロンドン、パリ、ウイ  
 ーンの各大学の研修機関でセミナーを重ねたの  
 ち、鉄道とバスでプラザに行き、東ベルリンの

リンボルト大学で最後のセミナーをやつて、ベ  
 ルリンの壁を越えて西ベルリンに到り、約一時  
 間にわたつて、今度は西側から壁を眺めたので  
 ある。その直後に東欧情勢が激変し、あの歴史  
 的な壁があつたという間に壊されたのである。ま  
 だ、研修旅行に加わつた学生たちにとつては、まさ  
 に感慨深い思い出となつたようである。

Yさんの選択は、テニス部員として立派なも  
 のであつたと思ふが、一方、Yさんにこの現代  
 史の激動の臨場感を味わせてあげたか、たとい  
 へば、少しは思つたものである。

人生にとつて、時間の選択は難しいものであ  
 ることを、改めて私に教えてくれたYさんとの  
 出会いであつた。